





乾杯の音頭 謙訪ひな子さん



スカイツリーをバックに



乾杯の音頭 謙訪ひな子さん



乾杯の音頭 謙訪ひな子さん



乾杯の音頭 謙訪ひな子さん



談笑の輪が広がります。いちはん左が寄稿くださった 加藤芳治さん

美味しい食事と素晴らしい景色を素晴らしく撮影された 斎藤二郎さん

爽やかな空気を胸いっぱいに



平成25年喜寿を祝う会

平成25年5月24日、本荘グラ

ンドホテルにおいて、本荘中学

校第六期生（昭和28年卒業）に

よる「喜寿を祝う会」が盛大に

開催されました。出席者は総勢

110名。関東一円から20名が

参加しました。健康長寿を願う

神主の祝詞ののち、全員で記念

写真を撮り、よいよ祝宴開始

です。司会は高橋昇君、発起人代

表あいさつは生駒重孝君、そして

本会開催に当たり、多大な貢

献をされた在

京の三浦敏男君の音頭で乾杯し、

なごやかな懇談に入りました。

昭和12年同期生は、私は

これまで良い年輪を一人ひとりに見

思い出しました。

果てしない歓談のあと、校歌を

齊唱し、中川節子さんの閉宴のあ

いさつでお開きとなりました。

再会を約束して、クラス別の

先週までの茹だるような暑さもなく、絶好の船遊び日和で、風も涼しく、移り変わる風景を楽しみ、飲みかきカラオケに興じる。進行役は松本女史。同級である彼女の軽妙な話術は、いつどこで身につけたのだろう。一度聞いてみたいと思っているのだが

ほぼ2年ぶりのふるさと会参

加である。病上りの身体には、

涼しく、梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気もするが会う毎にうれし

くなる。これが私のふるさと感

なのかもしれない。余分だが一句

冷酒や、訛飛

び交ふ、屋形船

勤を重ね外側から見ていると我

がふるさと又、人達は花に例え

て梅の如きである。桜も良いが、

ゆっくり咲いて、こちらが気持ち

を向かないと思つかない。いつ

の間にか散つてゆく。少し寂しい気も